

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	近例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060817	2008年7月21日に南ラトビアの小さな村で屋外村民休暇行事と関連する腸炎菌による胃腸炎の流行が起こり、7月22-25日まで続いた。聞き取り調査した107名の参加者の内49名が流行症例の評価基準を満たし(発病率46%)、検便の結果26検体中8例が腸炎菌陽性であった。レトロスペクティブコホート研究の結果、生卵で作ったフライドポーク料理が原因と考えられた。
												ブドウ球菌感 染	Ann Clin Microbiol Antimicrob 2006; 5(20): 1-4	オランダで養豚農家の家族3名、従業員3名および検査したブタ10頭中8頭がMRSA陽性であった。分離されたMRSAはMLST ST398であり、以前フランスのブタおよび養豚農家から分離されているものと同じ型であった。ヒトとブタ間のMRSA伝播が明らかになったが、地域的な問題か新規のMRSA源かを評価するための研究が必要である。
												ブドウ球菌感 染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 2442-2447	腎移植を受けた63歳の女性がメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による心内膜炎で入院した。分離された菌は、最近オランダのブタから高い割合で分離されたMRSA株であるシーケンズ型398であった。この論文はブタMRSAによる重篤な感染についての最初の報告である。オランダ感染防止作業部会はこの株の拡大を防ぐため、リスク集団(養豚業者、食肉処理場従業員、獣医)が入院する場合にMRSA保菌者でないことが確定するまでは隔離すべきであると、ガイドラインの修正を行った。
												サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(11)	フランスで2005年8月から2008年3月の間に69例のSalmonella Manhattan感染が報告され、その内51例(74%)が南東部フランスからであった。聞き取り調査の結果、感染症例はポーソーゼーと牛肉を食べた傾向が高かった。同時期に南東部フランスの肉製品からS. Manhattanが分離され、ヒトからの単離体とPFGEプロファイルで差がなかった。追跡調査により、ある食肉処理場でSalmonella spp.とS. Manhattanによる広範な汚染が明らかとなった。
157	2007/05/08	70156	ニプロ ファーマ	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル 酸ナトリウム	コンドロイチ ン硫酸ナトリ ウム	ウシの軟骨	米国	有効成分	無	無	無			
158	2007/05/10	70157	テルモ	ヘパリンナトリウム	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	有	無	無	感染	ProMED- mail20070114.0185	中国Xian農業文化局は2007年1月4日、「ブタ高熱病」は制圧されたと発表した。この疾病は人獣共通病ではなく、国の強制的ワクチン接種リストには含まれていない。影響を受けた村では13420頭中5866頭のブタが感染し、2390頭が死にいた。